

みれあいの街中空間を創る



# 公共施設 などの

# 再編整備

を検討しています

9月25日(水)～30日(月)

## 北海道大学大学院生が 公共施設の利用状況調査



◀▼生きがいセンターや生涯学習センターなど11施設で調査を行いました。



平成26年設計、平成27年建替工事を予定している「生涯学習センター」の利用状況調査が、9月25日(水)～30日(月)にわたり、北海道大学大学院工学研究院の学生5人によって行われました。現在取り組んでいる「生涯学習センター基本計画」の策定の一環として行ったもので、センター利用者はもちろん、各サークル活動団体などへのヒアリングを行いました。

調査では、施設の利用頻度や目的、満足・不満足、施設までの交通手段などを直接ヒアリング調査しました。調査結果については、まとめ次第、広報紙などで紹介したいと思います。

## 10月3日(木) 住民説明会

約70名参加

### 「十勝恵愛会病院」移転新築

### 上士幌福寿協会 多機能型施設を建設

10月3日(木) 2回にわたり、社会医療法人北斗 十勝恵愛会病院の移転新築、社会福祉法人 上士幌福寿協会の施設整備について、住民説明会が行われました。

#### ◆新施設建設までの期間中について (11月1日～平成27年3月31日)

- ①11月以降、名称を「上士幌クリニック」に変更し、5床のベッドを残し、救急時の受け入れに対応する。
- ②これまでどおり外来診療は行う。

#### ◆平成27年度、新施設開設について

- ①新施設の老人保健施設は、現時点で40床程度を検討。この40床は現

在、十勝恵愛会病院に入院している上士幌町民の人数から検討しているもの。

②有床診療所を併設するが、救急対応時における入院ベッド数については検討中。

③常勤医2人をはじめ、職員や診療科目に変更はない。

などが説明されました。

また、新施設開設後は、24時間対応の訪問看護やデイケアなど充実したサービスが提供されると話されました。

同じく平成27年にオープン予定



▲鎌田北斗理事長からは、今後の地域医療体制や医療、介護ニーズについても話されました。

の上士幌福寿協会の福祉施設は、現上士幌すずらん荘南側に地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護施設、地域交流スペースが一体となる施設であると話されました。



## 全国学力・学習状況調査結果による本町の傾向

# テレビやゲームなどの時間に一層の改善を

昨年度は理科を加えて実施されましたが、今年度は従来実施してきた国語と算数・数学の2教科で調査が行われました。本町では対象児がいない糠平小学校を除き、小学校4校の6学年及び中学校3学年が参加しました。

この調査は、学校と家庭が今後の教

育指導や学習環境等の改善に生かすことを目的として、2教科の学習の到達度・理解度、学習意欲、学習方法、学習環境、生活のようすなどに関する内容で行っていますが、学力についてはテストで測定できることが可能な特定の一部分を調査したものです。

※お問い合わせは、教育委員会(☎2-3014)土肥まで

### 本町の児童生徒の学力傾向

■小・中学校ともに、身に付けておくべき知識・技能など「知識」に関する問題に比べて、それらをさまざまな場面で応用する「活用」に関する正答率が高い傾向が見られます。

■小学校は、2教科ともに「活用」に比べて、「知識」は全道平均をかなり下回る結果となっています。特に、国語の「知識」については後半問題の「無解答率」が高く、数値が低くなっています。

■中学校は、国語の「知識」はほぼ全道平均、2教科の「活用」は全道平均を上

回る正答率となっていますが、数学の「知識」は下回る結果となっています。3年前の小学校6年生の調査時に比べると、2教科の「知識」「活用」の全てが1.5ポイントから5.8ポイント伸びています。

■領域別(小・中学校ともに16領域)に見ると、全道・全国平均に達しているのは小学校で2領域、中学校で4領域、他に中学校では3領域が全国平均には達していないものの全道平均を上回っています。



### 生活習慣や学習習慣等の傾向

■基本的な生活習慣では、小・中学生ともに「起床・就寝・睡眠時間」は比較的安定していますが、課題となっている「テレビやゲームなどの時間が長い」ことについては、改善が十分ではなく、関連して「家庭での学習時間が短い」などの課題が改善されていません。

■家庭学習の内容では、宿題や授業と関連した復習、「自分で計画を立てて勉強」などで改善のあとは見られていますが、予習の取り組みが十分とはいえません。

■「自己有用感をもつ」ことは、小・中学生ともに全道平均を上回っています。が、「失敗を恐れないで挑戦すること」や「将来の夢や目標を持つ」ことでは、中学生が全道平均を下回っています。

### 課題解決に向けての取り組み

■学校では、個別課題を重視した「学校改善プラン」を策定し、授業改善を中心に基礎的・基本的な事項や学習習慣などの充実を図っていきます。

#### ◆授業改善を図る

一人ひとりが基礎的・基本的な知識、技能を十分身につけ、学習意欲や集中力を高め、分かる喜びを実感できる授業づくりを目指します。そのため

に、実物投影機や電子黒板などの活用や、授業の「終末」段階での学習の振り返りやまとめの重視、子どもによる自己評価を大切にします。併せて、2人以上の教職員が連携・協力して授業を行うTT(ティーム・ティーチング)方式によるきめ細かな指導やサポート学習により学習の定着を高めていきます。

#### ◆家庭学習の習慣化を図る

起床・就寝・睡眠などの基本的な生活リズムが比較的安定していることから、テレビやゲームなどの時間を1日2時間以内として、学年×10分を目安とする家庭学習時間の確保に努めることが重要となります。

また、子どもの質問紙の回答より、主体的な学びの芽も育ってきていることがうかがわれますので、「自分で計画を立てて勉強」の一層の充実を図ることや、授業と関連した内容の復習・予習を日常化する指導を強めていきます。

#### ◆「かみしほろの健やかな育ち」の活用

本町の子どもの良きである「地域行事への参加」の高い意識を生かし、広く地域社会に目を向け、人との関わりや、豊かな体験を通じて、将来の夢や目標を育んでいきます。

